

様式 - A

用語	台風の強さ	強い (台風)	非常に強い(台風)	猛烈な(強さの台風)	中心気圧
よみ	たいふうのつよさ	つよい	ひじょうにつよい	もうれつな	ちゅうしんきあつ
解説	特に強い台風に限って、台風番号の前に強さを示す形容詞を付ける。基準は台風域内の最大風速による。	最大風速が33m/s以上～44m/s未満の台風。風速が30m/sになると雨戸がはずれたり、しっかりしていない家が倒れたりする。	最大風速が44m/s以上～54m/s未満の台風。風速が50m/sになると鉄塔が折れ曲がることもある。	最大風速が54m/s以上の台風。	台風の中心の気圧。台風の強さの目安に中心気圧がある。
用例 (主に活用される場面)	「大型で非常に強い台風第15号」のように台風の大きさと組み合わせて表現する。				
関連用語・類似用語	台風強度(同義語)				
注意すべきポイント (防災上の注意すべき点)	最大風速が33m/s未満の台風では強さの表現はしない。	「台風並みに発達した低気圧」といった表現をすることがあるが、この言葉を使う場合、単に低気圧の中心気圧を対比させているだけのことが多い。台風と発達した低気圧とでは暴風や強風の分布に違いがあるので、むやみに使わないこと。 特に、冬季日本の東海上で発達する低気圧には、暴風や強風となる範囲が2,000キロメートルに及ぶものもあり、注意が必要である。 また、中心気圧が同じでも、台風の発達期と衰弱期とでは最大風速は異なるので、中心気圧だけを見て風速を推測するのは誤りである。			